

図3 生存率と仔魚の成長

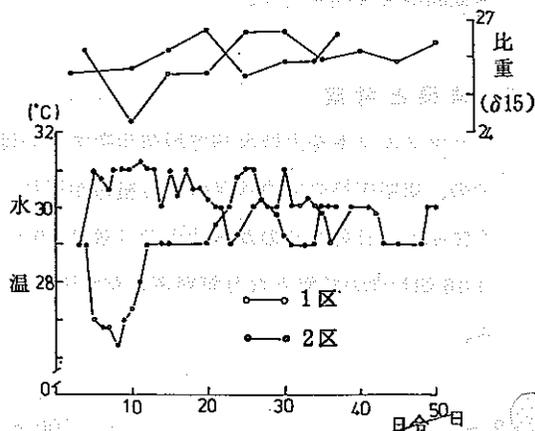


図4 水温と比重の日変化

1区はふ化後30日目頃から落ち始め、45日目からは斃死しなくなったもののその間の確認斃死尾数は18,500尾、2区はふ化後17日目から斃死が目立ち始め、21日目からは $10^2$ 尾単位、28日目から $10^3$ 尾単位で斃死していき沖出しまでの確認斃死尾数は16,600尾であった。斃死原因はさだかではないが間接的には高水温（平均水温が1区29.2℃、2区30.1℃）と、少ない注水量（0.5～1.0回転/日）のため飼育水の回転率が悪いこと、それと陸上水槽による長期飼育が何らかの影響があったものと思われる。

今後の歩減り対策として、初期餌料については本土産の大型種であるマガキの導入をはかる。屋外の飼育水槽には遮光ネットが設置できるようにして強烈な太陽光線を防ぐようにする。流水流量も増量して飼育水の回転率を良くすることなどが考えられる。

## IV 沖出し飼育試験

### 1. 方法

生簀は海面小割網生簀方式で2面（5×5m枠）を使用、石垣市川平湾の図5に示す●印の場所へ生簀を設置した。生簀設置場所の水深は約15mである。使用した生簀網は収容当初は3mm目モジ網（4.3×4.3×4m）、5mm目モジ網（4.3×4.3×4m）、10mm目テトロンラッセル網（5×5×5m）を魚体に応じて順次使用した。輸送は70ℓポリ容器に魚を収容し船を使用して約10分間を費した。計数は輸送容器にはほぼ同数になる様、魚を収容し、輸送した容器の回数より算出した。餌料はマダイ用配合餌料1号を1日3回飽食するまで投与した。1日1回午前10時頃水温、塩分濃度を測定した。